



更生
保護

きつきた きおおた

〈編集〉

杵築・大田地区更生保護編集委員

〈発行〉

杵築市社明運動推進本部

杵築・大田地区更生保護連絡協議会

〈事務局〉

藤本治郎 杵築市城山 Tel62-3126

「地域総ぐるみの 学校教育・犯罪防止」の 実践をめざして



杵築市教育委員会
委員長
清末 陽一

「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」のキャッチフレーズを掲げて、今年も『社会を明るくする運動』月間が始まりました。

幼児虐待や犯罪の低年齢化などが問題視されていますが、本運動の主施策である犯罪や非行をなくすために、また、立ち直ろうと決意した人を社会受け入れていくためには、学校はもちろん、家庭や地域づくりが大事であると思います。

杵築市では、平成25年4月1日に「教育立市」の宣言し今年で12年目を迎えました。その中に、【杵築市には、誇るべき教育の伝統があり、その伝統を受け継ぎ、さらに発展させていくために、市民一人ひとりの協力が必要であり、今後、「ひとが育ち、輝くまちづくり」を進めるため、教育行政はもとより、地域ぐるみでさらに「教育」にチカラを注ぐことが大切です】と謳っています。それを受け、今年も杵築市学校教育

育基本方針には「生きる力を育む学校教育の充実」をテーマに、『地域総ぐるみの学校教育』を展開すべく教職員一丸となつて毎日取り組みを行っております。

具体的には、開かれた学校づくりを進め、学校と家庭・地域の方々と一緒に取り組むことが大切です。

例えば、「あいさつ運動」一つを例えにとつても、学校内だけでなく、家庭・地域での実践を通して、初めて子どもの内面的な自覚を深める事になりますし、そうすることで、さらに高まっていくことに繋がります。

市内の保護者・地域の方々には、この書面をお借りして、このような趣旨をご理解の上、学校教育へのご理解・ご支援を賜りますように引き続きよろしくお願い申し上げます。



啓発活動 JR杵築駅前



麓刑務所

第74回「社会を明るくする運動」は、「すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場においてチカラを合わせ、犯罪や非行の無い安全で全国的な運動」となっています。

これは、まさしく、『地域総ぐるみの学校教育』と目的・方法を同じくしています。犯罪を犯し起こしたり、非行に陥ったりしないように個人の自覚と責任を求めますが、今日のような社会情勢の中では、学校・家庭・地域が一体となり犯罪のない明るいかんきようをつくる必要があります。

是非、『地域総ぐるみで犯罪防止』に取り組み、明るい杵築のまちづくりを展開していきましょう。

犯罪はもうやめてほしい

杵築市立護江小学校5年

清 末 陽 咲

犯罪には、色々な種類があります。例えば「さつ人」「どろぼう」「とうさつ」などさまざまな事があります。ですが、絶対にやってほしくないです。なぜなら、犯罪にはデメリットしかないからです。だけど、犯罪をしてしまう人は、たくさんいます。私も、ニュースや新聞などで、犯罪をした人をたくさん見てきました。

私が犯罪をしてほしくないと思う理由は、四つあります。

一つ目は、犯罪をされた側の気持ちについてです。何もしていないのに他人から犯罪をされてしまうと、犯罪をされた本人や家族はとても悲しいと思うし、もし私の家族が他人に犯罪をされたら、その人の事を私は一生うらむし、家族が他人から犯罪をされると、とても悲しいからです。

二つ目は、「どろぼう」についてです。お店で物をぬすんだり、お金をぬすんだりすると、警察につれて行かれるので、自分はぜんぜん得しないからです。

三つ目は、ひぼうちゅうしょうについてです。SNSに人の悪口を書いたりすると、書かれた人は、とてもきずつくし、とてもいや

だった人は、自さつする人もいるのでSNSに何かについて書くことがあったら、人の気持ちを考えながら書いてほしいからです。

四つ目は、暴力についてです。気に入らないからといって勝手に手を出したり、集団で一人にこうげきしたりなど色々な種類がありますが、どれも悪い事なのでやめてほしいからです。

ですが、犯罪者側にも理由やかがあるのです。犯罪者側ばかりをせめないで、その人の理由を聞いてあげてもいいのかもしれない。だからといって、犯罪をおかしていいというわけには、ならないので、理由があっても、犯罪はしてほしくないと思っています。

もしも、この社会に犯罪がなくなったら、みんなが笑顔でくらせると思うし、さつ人や自さつがなくなるので、みんなが安心できるし、どろぼうもなくなったら、おみせのひともし安心してお客さんに来てもらえるようになるので、犯罪がなくなったら、今の社会より、とても平和な社会になると私は思います。なので、みんなや私たちができる事をしていき、いつか犯罪をする人が減って、みんながとても安心できるような社会になってほしいと私はとても思っています。



自分らしいを 発信していけるように

杵築市立杵築中学校2年

藤 原 空 美

私は何気なくテレビを見ていると速報で「りゅうちえる」さんが亡くなったことを知りました。ニュースを見てみると、誹謗中傷などが原因で自殺をしたそうです。私はテレビで見える明るく元気な「りゅうちえる」さんしか見たことがなかったのに、悲しいと同時に不思議という気持ちになりました。

なぜ、「りゅうちえる」さんが誹謗中傷をされていたのか、自殺をしたもつと詳しい理由が知りたくて、この事件の詳細を調べてみることにしました。

まず、「りゅうちえる」さんは「ぺこ」と結婚しており、子どもが一人いました。二〇二二年八月に離婚をしてしまいました。「りゅうちえる」さんが離婚した理由は性自認だと言われており、「本当の自分を隠す（りゅうちえる）」との間に、少しずつ溝ができてしまいました。「りゅうちえる」さん自身が語っていたそうです。父親であることは誇りに思えるのに、夫であることには辛さを感じていたと、夫である自身の立場と性自認の間に乖離が生れたという複雑な心境を明かしていました。ですが、離婚後はメイクやファッションで自身のセクシユアリティ

（人間の性のあり方の全般）を自身のインスタグラムなどに自由にのびのびと表現し、発信していくようになりました。

一つ目の自殺の理由である誹謗中傷は、自分のありのままの姿を発信していくうちに批判的な声が上がりはじめました。誹謗中傷の内容は、「離婚したことで元妻の（ぺこ）さんまかせで育児放棄しているのではないか」「りゅうちえる」さんが本来の自分を表現し始めたこと、女性化が気にいらぬい」などの他に、「死ね」「ブス」などがあり、ほとんどが憶測や思い込みからくる偏った批評ばかりでした。

二つ目の自殺の理由は普通の父親になれなかったこと、世間の父親像とはかけ離れた自分への悩みだと考えられています。性自認に悩んでいた「りゅうちえる」さんは周囲に「夫や父親の肩書があることで、どちらの肩書にも合うようなキャラを出していかないといけない」と思っていた。だんだん自分では抱えられなくなつた」と話していたそうです。離婚後に女性として振る舞い、自分らしく、おしゃれをしている姿を「育児放棄しているのでは？」と言われていたが、「ぺこ」さんのユーチューブで「りゅうちえる」は仕事をしているから、私に比べて息子という時間が少ないだけで、今も一緒に住んでいて子育ては二人でしている」と「ぺこ」さんが、話したが批判する人が多くいました。それについて「りゅうちえる」さんは、「この子の親を辞めたつもりありません、辞める

ことなんてできません」と説明して
いましたが、世間の父親像とかけ離
れた自分に人知れず悩んでいたと思
いました。

この「リゆうちえる」さんの自
殺の件で、誹謗中傷をした人、この
国の社会にすぐ怒りが湧き出まし
た。少し前にあった女子プロレス
ラー木村花さんが誹謗中傷で亡く
なった事件で、誹謗中傷は人を殺す
チカラがあると分かっていのに、
誹謗中傷をする人達は本当に許され
ないと思いました。そして、「自分
らしいを発信して、批判されるのは
おかしい」思いました。これからは、
「自分らしい」を発信したいとみん
なが思えるような社会になってほし
いです。

作文コンテスト参加作品募集

法務省の主唱する第74回社会を明
るくする運動の作文を募集します。
要項は、左記のとおりです。一人で
も多くの参加をお願いします。

*応募資格 全国の小中学生

*テーマ 「社会を明るくする運
動」の趣旨を踏まえ、日常の家
庭生活・学校生活の中で体験し
たことを基に、犯罪・非行のな
い地域社会づくりや犯罪・非行
をした人の立ち直りについて考
えたこと、感じたことを題材に
したもの。

*原稿枚数 4百字詰め3〜5枚

*締め切り 本年9月6日必着

*提出先・問い合わせ

杵築・大田地区更生保護連絡
協議会事務局

事務局 藤本治郎

090(3600)9779

お知らせ

7月16日(火)の2時30分より
「社会を明るくする運動」啓発集
会を杵築市役所山香庁舎3階
ホールで実施いたします。



杵築・大田地区更生保護連絡協議会

会員の異動

退会

保護司 矢野省三

更生保護女性会 八坂美砂代

入会

保護司 河野光生

更生保護女性会 工藤靖子

役員

会長 理事 齊藤一光

副会長 理事 高橋博和

副会長・女性会長 工藤まり子

事務局長 藤本哲郎

理事 坂本公博

理事 真鍋美智子

理事 中村山

理事 大鹿村

監事 鹿嶋久栄

杵築国東保護区保護司会 杵築分區

保護司 矢野玄徳
保護司 齊藤一光
保護司 鹿嶋憲之助
保護司 山本淳
保護司 東本
保護司 脇坂克吉
保護司 矢野省三
保護司 坂本哲和
保護司 高橋博和
保護司 藤本陽子
保護司 後藤鍋公博
保護司 真鍋公博
保護司 工藤まり子
保護司 河野光生



パレード

社 明 コラム ひまわり

滋賀県大津市で、保護司の男性
が担当する保護観察中の35歳の
男性に殺害されるという痛まし
い事件が起こりました。保護司
として、一生懸命に容疑者の男
性の就労支援等を行っていたと
報道があり「犯罪に戻らない、
戻さない」という強い信念で対
応をしていたのに非常に残念で
す。心よりご冥福をお祈り申し
上げます。

さて、7月は「社会を明るくす
る運動」強化月間・再発防止月間
です。更生保護の目的は、犯罪の
ない社会、罪を犯した人が立ち直
れる社会を作ることです。

この運動は、犯罪や非行の防
止と罪を犯した人たちの更生に
ついて理解を求め、犯罪や非行
のない明るい社会を築くことを
目的として、昭和26年に始まっ
た全国的な運動です。

この活動を地域の方々に周知
していくことで、犯罪のない地
域社会が出来ると考えています。
微力ではありますが、「犯罪に戻
らない、戻さない」を胸に犯罪
や非行のない地域づくりに頑
張っていききたいと思えます。

杵築・大田地区更生保護連絡協議会

保護司 坂本哲知